

「宗像市環境保全審議会」
平成 21 年度第 1 回会議会議録

- 日時：平成 22 年 3 月 17 日（水）午前 10 時～正午
- 場所：市役所北館 2 階 202 会議室

- 出席者：二渡会長、岡本副会長、郷司委員、長山委員、前田委員、森委員、矢次委員
- 欠席者：戸田委員、吉武委員、福島委員
- 事務局：野中市民環境部長、早川環境保全課長、賀来（企画主査）、橋本
- コンサルタント：(財)九州環境管理協会 保田

1. 開会 早川課長より開会あいさつ
2. 会長あいさつ 二渡会長よりあいさつ

<事務局より配布資料の確認>

3. 確認事項（事務局）

(1) 平成 20 年度第 1 回会議会議録について

平成 20 年度に行った環境保全審議会の会議録。長山委員からの指摘があり、修正をした。

【修正箇所】

7. 審議事項の MD に残す→電子媒体（MD 等）に録音することに了承する。電子媒体（MD 等）やファイルの管理をきちんと行う。

(2) 審議会の運営について

①審議会の公開・傍聴

【修正箇所】

第 5 条の全ての係員→市の担当職員

②審議会の記録の作成

会議の記録は MD 等電子媒体で管理する。事務局で作成したものを各審議委員に確認してもらい会議録とする。

傍聴に関する取扱要項（案）と記録の作成（案）について確認をお願いしたい。

会長：前回の会議録、傍聴に関する取扱要項（案）、記録の作成（案）を修正して再度出していただいた。確認して「案」を取る。

矢次委員：書類等の廃棄基準はどうなるのか。市の文書管理の規定があるはずなので示す必要があるのでは。

事務局：指摘のとおり市の文書管理規則に従う。

会長：市の文書管理規則に従って処理し、特に明記しないということによいのか。
前回の会議録、傍聴に関する取扱要項（案）、記録の作成（案）審議委員で認めたということで「案」を取り運用していく。

4. 審議事項

<第1号議案 「宗像市地球温暖化対策実行計画」について>

(1) 計画の法的位置づけ及び構成(資料④)

コンサルタント：資料④について説明

会長：宗像市地球温暖化対策実行計画は、事務事業に関する部分と、地域の温暖化対策に関する部分を二つに分けてつくるのか。

事務局：並行作業をしているが、区域施策編、事務事業編として一つにまとめる。

事務局：実施体制の本部は計画の策定、見直し、推進の方策、公表を決定する。幹事会は本部への報告、提案を行う。

区域施策編について。地域部会は資料④の右側に該当する。WGをつくり、宗像市にできる施策を関係課で調整を行っている。市役所だけでつくるのではなく、環境保全市民協働会議で意見を聞きながら、計画に取り組んでいきたい。環境保全審議会では、できあがったものではなく、策定段階から意見をいただきたい。

事務事業編について。公共施設部会は、資料④の左側に該当する。市役所が一つの事業所という考え方で計画。公共施設部門を担当している財政課が窓口になり、市庁舎だけではなく、対象を学校、公共施設等全般に進めていく。責任者の下に推進員を置き、職員及び関係者で地球温暖化対策に取り組んでいく。幹事会を2回行い、どのように取り組んでいくか整理している。削減目標を決めて市独自の取り組みを行っていきたい。

会長：事務事業編、区域施策編の内容検討について、意見を出すことが環境保全審議会の役割だと思う。宗像市としてどのように取り組んでいくのかがポイントになってくる。

副会長：長期的にみると、都市計画、農業振興計画との連携でドラスティックに変わる。最悪なシナリオは、現在の都市計画、農業振興計画で個別に省エネ対策をやっていけば、20年で高齢化と施設の劣化が起こる。宗像市の地域モデルとして、40年先は絵に描いたもちのようなものだが、大きな絵を描くことが必要。子どもたちに、宗像市は次世代に向けてやっていることがイメージとして見えるようなものをつくる(積み上げは必要ない)ことに重点を置く必要がある。都市計画が一番難しい。

事務局：都市計画の中でもコンパクトシティの計画がある。目の前のできることも大事だが、短期、長期にできることをすみわけし、将来の方向性も示したい。

矢次委員：長期計画と都市計画の関連は重要。例えば、都市計画を進めながら、長期計画の進め方によって都市計画を修正する。交通渋滞で市街地が集約してくると排ガス規制の問題が出てくる。パーキングエリアをつくり、循環バスを運行させることが必要になる。

長期計画はないといけない。達成時点は政府の基本計画の原案が決まっているので合わせていく。国、県の中で宗像市の位置づけがわかるようにして計画を見直す必要がある。

組織には①教育問題、②計画を動かしていく専門家(コメンター)が必要。

環境教育の成果は10年後に出てくる。小学校の単元に環境教育を入れてもよいのでは。

副会長：厚生労働省の人口問題研究所で今月いっぱい人口予測を公開している。4月か

ら事業仕分けで公開がなくなる。北九州市は、2050年までにドラスティックに人口が減る(60%)。高齢者割合(65歳以上)が40%。宗像市は高齢化が進むが2020年までは横ばい。2050年までに30~35%減る。18~65歳までの労働人口は50%。都市計画、将来の環境モデルを考えると、社会がどのようになっていくのかという事実を予測できるデータは人口だけ。周辺の予測データを把握しておく必要がある。

会長 : 宗像市としての将来ビジョンを明確にして、温暖化対策を位置づけていくのが先ではないか。宗像市の人口が変わることで計画の中身も変わる。人口は減少しているのか。

事務局 : 宗像市は予測では減少だが、他市よりも緩やか。

会長 : 教育の取り組みも盛り込むことになるだろう。

事務局 : 他課の計画を今すぐ変えるのは無理だが、次回見直しに反映できるだろう。教育については、事務事業編は学校全体で取り組むものなので、地域編に示す。

副会長 : ヨーロッパではバックキャストिंगで施策を考えている。2050年のゴールを目指し、マスタープランを調整しながら少しずつ変えていく。北九州市はやっていくのではないか。宗像市もやればコンパクトで分かりやすいモデルができるのではないか。

やれるかどうかかわからないが、環境だけではなく、地域全体で何ができるかステアリングしていく施策能力があればよい。

事務局 : 参考にする。

会長 : 策定段階、実施段階の両方で必要なので調整していく。

実行計画についての位置づけ、実施体制についての説明で環境審議会の役割が理解できたと思う。

会長 : 順番が逆になるが、スケジュールを確認しておく。5. その他(1)今後のスケジュールを先に説明してほしい。

(2)『地球温暖化対策実行計画』の策定に関わる審議会開催スケジュール(案)(資料⑧)

事務局 : 資料⑧について説明

会長 : パブリックコメントの際にシンポジウム等の計画はしないのか。

事務局 : 現在は計画していない。

会長 : するかもしれないということか。HPでコメントを募集しても意見が出ない。イベント的に行うと、関心を持たれている方は意見が出しやすいのでは。

事務局 : 検討する。

郷司委員 : 今日、計画の素案を検討するとのことだが、素案のもとになるのがイメージ(案)なのか。何を審議するのか分からない。実行計画の中身について審議し、それをもとに素案をつくるのか。

事務局 : 地球温暖化実行計画を策定するというところで、法的な位置づけ、基本的な視点等の振り分けを理解していただく。

国の策定マニュアルをもとにイメージを示したものであり、これを審議するのではない。施策についてどのような内容を盛り込んでいくかを議論していただきたい。

会長 : 宗像市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)イメージ(案)で、素案までは至っていない。本日は、イメージ(案)について各立場から意見をいただく。

4. 審議案件（3）市民アンケート調査の実施について説明をお願いしたい。

事務局：計画の基本的な視点の中に「みんなで参加する市民協働」があるので、市民協働の施策を盛り込んでいきたい。市民アンケート調査を実施し、実施内容を計画にどう生かしていくか審議をお願いしたい。

（3）市民アンケート調査の実施について（資料⑥）

コンサルタント：資料⑥について説明

会長：非常に面白い結果が出ている。気づいた点があれば出してほしい。

副会長：P21 周辺環境の満足度で、「田島」は低い。宗像大社を中心に景観を守っているが電柱が多い。鉄塔が建つ予定もある。景観意識がなく、景観の中に電柱が散りばめられていることが結果として出たのではないかな。

コンサルタント：「田島」は1名の回答なので、評価の仕方考えた方がよかったのかもしれない。「吉武」、「田島」、「岬」、「大島」、「神湊」は回答数が少なく、回答者の意見に大きく左右される結果となっている。

会長：サンプルが10以下はとりあげない方がよい。

森委員：周辺環境の満足度の「ポイ捨てなどの散乱ごみの少なさ」は満足度が低いが、ボランティアグループで14日に500mくらいの河川清掃で、自転車が3台出てきてびっくりした。警告看板なども必要ではないかな。

矢次委員：盗難された自転車が非常に多く、捨てられているものは防犯登録証が削られているものもあるので連絡することができない。コピー機などの不法投棄は産業廃棄物の域になる。

鐘崎線に大きな広告ができた。環境保全の面から景観保護法の制定も考えなければいけない。

長山委員：省エネルギーについて配慮した行動については、電気・ガス、水、公共交通機関、に分け、家庭に何を求めるのか、これからどのように見るのかといったときのデータとして使うとしたら、クロス集計で、「現在実行し、今後も実行する」、「現在実行していないが、今後は実行する」は把握しているのか。宗像市の住民は、比較的意識が高いと思うが、CO₂削減を市民に求めるときに、既に実行している人としていない人を分けて考えることも必要。

新エネルギー・省エネルギーの設備の項目は、CO₂削減のために国が推奨しているものなのか。宗像市が推奨したいものなのか。

事務局：市民アンケート調査は、現在の意識調査ということ視野においてやっている。ごみやエネルギーの削減量については、市民の考えを把握したかった。新エネルギー・省エネルギー設備に対して関心を持っているのかを把握したかった。重点的に進めるものではない。

事務局：計画書への反映の仕方は検討していく。取り組みのステップを分けることも考えている。

会長：省エネルギーに配慮した行動については、取り組んでいないのは、「情報がない」のか。「しようと思ってもできない」のか。公共交通機関を利用するように、路線増加があれば利用も可能になる。計画書にアンケートの結果をどう反映させるか検討していく。

事務局：CO₂削減に金をかけることができるのなら色々なことができると思う。短期的なこと、長期的なことはWGで協議して示すようにする。

- 会長 : 宗像市でも高齢化が進む。コンパクトなまちづくり、都市計画が検討されることはあるのか。
- 事務局 : コンパクトシティについて計画の中にどこまでうたい込めるのかは、各施策を担っている課と協議する。
- 森委員 : ふれあいバスは路線が減った。コミュニティでバスの運行（吉武、南郷）がうまくいけばいい。
- 事務局 : コミュニティバスはCO₂削減、交通弱者に結びつけば効果が期待できる。
- 副会長 : 国の政策は省庁の縦割りがあり難しい。宗像市のようなコンパクトな市は、市民に対して、分かりやすく、自分と身近な政策でないため。
地球環境、地球温暖化対策と言うと関係がないと思うが、持続可能かどうか心配。「持続可能な宗像市」、「持続可能な地域づくり」を掲げて、地球温暖化、福祉対策等をサブタイトルにする。
10年～15年後の自由ヶ丘は高齢化している。総合的にみること、予測することの組み合わせで、今の段階からプランを立てる。総合政策として特色ある宗像市の将来プランはできないものか。
- 会長 : 温暖化対策は環境だけではない。まちづくりそのものが持続可能であり、温暖化対策に向かっていくことではないか。
- 前田委員 : 宗像市と一緒に環境リーダー育成講座をやっている。前回の講座の中で、循環型社会、人口の変化に伴う対処法が参考になった。ユリックスに1,000～2,000人位集めて講義してもらえれば分かりやすいと思った。施策を進めていく市の幹部の勉強会が必要。また、施策を浸透させるための市民啓発によるムードづくりをする。
新エネルギーの導入についてアンケートP20の「条件を整えば導入したい」が多いのは、判断する情報が少ないのでは。情報提供と学ぶ場所が必要。
「くりえいと北」のような新興団地全体で、低炭素化でまちづくりのムードづくりを行い、ストック型社会づくりを進めていくことで30年後40年後といった将来がみえる。先がみえない中で論議し、市民に対してうたえなくてもインパクトが少ない。市民啓発活動とまちづくりのステップも示してはどうか。
- 事務局 : 検討する。
- 長山委員 : 温暖化対策は「～ねばならない」ということで、トップダウンになりがち。そのような中で温暖化対策を進めても希望が持てない。市民にとっての明るい生活・未来がみえるということを示すべき。2050年の未来像は、希望が持てるモデルでないと「やる」ということが義務化されてしまう。宗像市の計画はそういうものでないようにしたい。
- 前田委員 : 「エコ」で得することが目の前にあったら、やってみようと思うのが今回のクルマ。
- 長山委員 : 近視眼的でなく、今はコスト増だが、10～20年後を見据えたら良くなるということでないため。「法律ができたから守る」では浸透しない。
- 事務局 : そのとおり。計画を立て、市民に実行してもらうには、何かがないといけない。関心がある人は実行するだろうし、関心がない人は従来の生活を続ける。将来像を描きながら啓発を進めていく。
- 副会長 : 文章ではなく、明るいイメージが絵でわかるものが必要。
- 長山委員 : 宗像市の豊かな景観を残すためには、自然との共存、ハイテクの最先端のもの

の融合が必要。宗像市のCO₂を削減しておかないと自然を残すのができないというような未来像が大事。

副会長 : 少子高齢化は間違いない。A・B・Cの3案を考え、2～3年おきにディスカッションしながら宗像市のゴールに向かっていく。選択肢を示し決め込まない。

会長 : 宗像市は自然環境が豊かなことが特徴。北九州市は工場の排エネルギーを利用した省エネ対策はできるが宗像市では不可能。宗像市ならではのメニューが出てくる。市民協働会議で議論して検討を進めていただきたい。

(4) 実行計画(区域施策編)の計画案(資料⑦)

事務局 : 資料⑦について説明

会長 : P2～9の資料は、全国の策定マニュアルから引用している。

事務局 : 大きな4つの柱に基づいて施策を展開していく。

副会長 : 国のマニュアルは、お金と時間概念が抜けている。P2の施策体系図の「低炭素型の都市・地球構造や社会システムの実現」は、今の対策ではできない。20～30先の地域の人口がどのようになっていくかをみないと、次世代の重荷になってしまう。

第3章に上位概念として、宗像市の将来イメージを示して、温暖化に入っていくのが理想。

長山委員 : 第3章に「宗像市はどのようなものを目指すのか」がない。目指さなければいけないことが連なっているので、第2章 宗像市の概況の前に、「はじめに」か「基本事項」になるか分からないが、宗像市の将来像を示して、地球温暖化対策の位置づけが必要。

事務局 : 宗像市の目指すものは、マスタープランでしかなく、30～40年のものはない。地球温暖化は先のことを求めているのでギャップはある。

副会長 : 人口動態は明確で変わらない。宗像市の概況はわかっているので、削減ポテンシャル量はコンサルタントにお願いすればいい。ざっくり計算して、どのくらいの人口が住めるか等を示しながら、みんなで考える。市民と認識を共有しないとうまくいかない。

長山委員 : 宗像大社を含めて世界遺産に登録するという事は、長期計画かも知れないが、宗像市の進む方向性を聞きたい。

事務局 : 環境型のまちづくりは変わることがない。宗像大社の世界遺産については、20～30先のまちづくりのひとつ。

会長 : 10年間の素案しかないので、将来的なことの話し合いをしないといけない。

長山委員 : 長期計画がない中で2050年のイメージをするのは無理。

会長 : 温暖化対策は先のことを求めているので、市としてもイメージをもっておかないと計画がつかれない。みんなイメージは同じだと思うので形にする。これからの動きを踏まえた上での宗像市でできる活動内容として、エネルギーは製造や移動にも使うエネルギーは、どこでつくられたものを使うのか、地元で採れた農作物を使うことも温暖化対策につながり、宗像らしさが出る。

矢次委員 : 目次の第5章 計画の総合的推進の、第4章の「温室効果ガスの削減」だけに限定すると施策は絞られるだろうが、それだけではないので、表題は考えるべき。

副会長 : 宗像市はバランスシート上、緑が多く、農業もあり、排出じゃなく吸収する能力は高い。排出するという視点ではなく、固定も考えていく。

矢次委員：排出削減だけではなく、緑地化比率や水面も増やすような地球温暖化対策があるので、タイトルを見直すと個別のものは整理できる。

事務局：環境基本計画の下の位置づけになるので、緑地等は環境基本計画で進行する。

矢次委員：各計画の切り口で整理すればよい。

会長：今回は何かを決めるということではなかったが、内容を整理すると、①将来像を示す、②環境に限らず、まちづくりの視点で、温暖化対策に資するものを広く取り込む、③総合計画など、環境基本計画との整合を関係課と図る。

5. その他

会長：スケジュールは先ほど説明があったとおり。

次回は5月（日時については後日連絡）。素案の検討をする。

事務局：WGのとりまとめ、市民・環境団体でたたいたものを準備する。

事務局：審議会の開催について、要望等があれば出してほしい。

矢次委員：アンケートはよくまとめられているので、市民の啓蒙のために活用する計画はあるのか。市民が再確認し、問題意識をもつのではないか。

事務局：市民協働会議の資料として提示する。タウンプレスの掲載も検討する。

会長：アンケートは、経費を使って調査しているので、役立ててほしい。